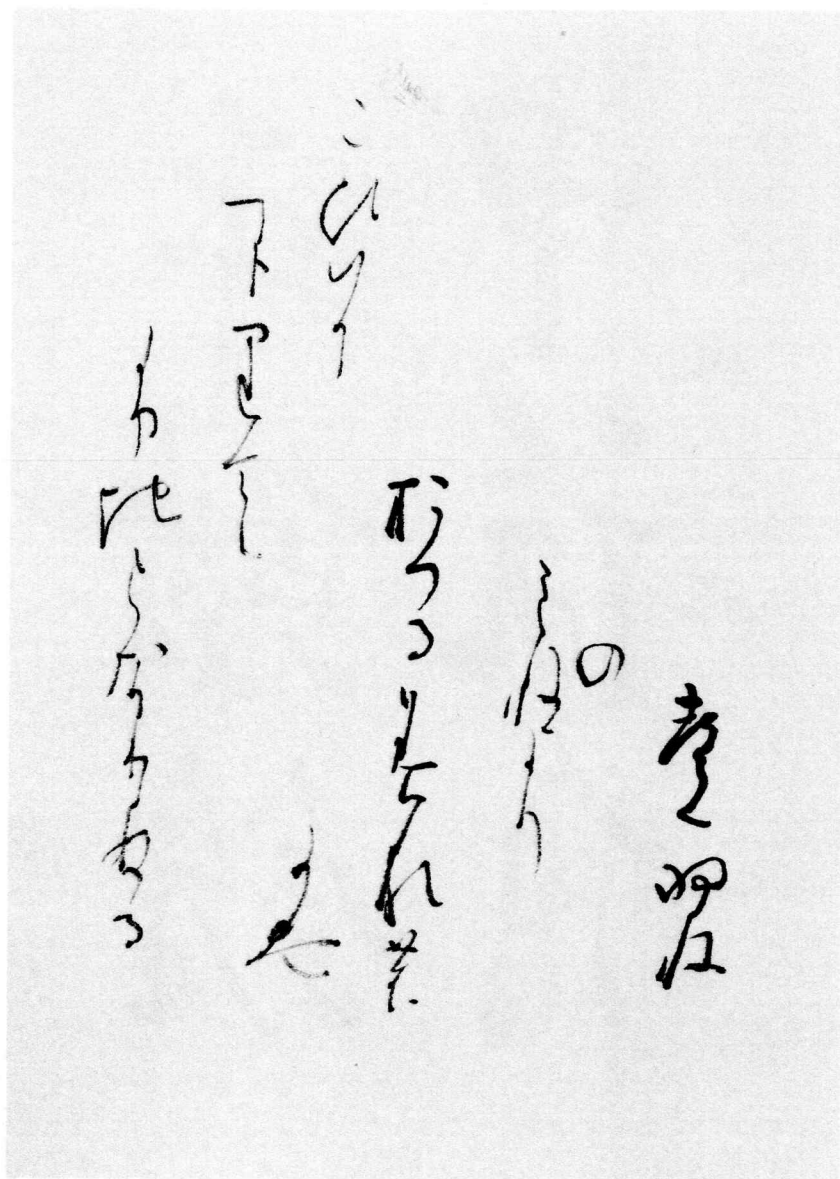


『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (士)

筑波嶺の峰より落つるみなの川 恋ぞつもりて淵となりぬる

陽成院



中村素堂先生の書

大島香菊様提供

〈歌意〉

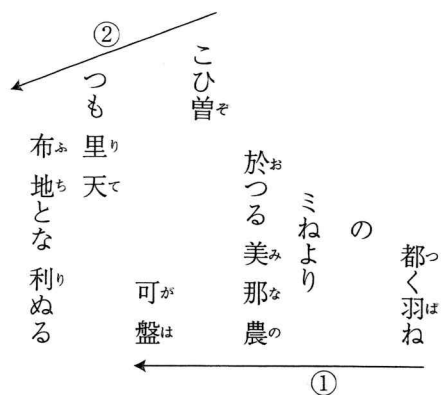
「筑波山から流れ出るみなの（男女みなの）川が、わずかな流れから次第に深い淵となるように、私の恋心も、今は深くなつてしまったことであるよ。」

この歌は『後撰集』（恋・七七七番）に出ています。

（陽成院 陽成天皇）

貞観十（八六八）年 天曆三（九四九）年。八二歳。第五七代天皇。

〈字母〉



この歌は、上下2集団構成で、下部（上の句）を強く、上部（下の句）を軽く書かれています。

（中村青藍）